

多摩川水系市内河川における「モクズガニ」の 生息調査とその報道について

On the Sensation of Recovered “Mitten Crab” at Tama River in Kawasaki

石 田 哲 夫 Tetsuo ISHIDA
村 上 明 美 Akemi MURAKAMI
岩 瀬 義 男 Yoshio IWASE
櫻 木 進 Susumu SAKURAGI

1 はじめに

「モクズガニ」は比較的大きな蟹（甲長及び甲幅；約5cm，体長；約25cm）で，はさみの付け根の部分に長い軟毛が房状に密生しているのが特徴である。習性は夜行性で水中の生活がほとんどのため人目にはあまりふれないが，国内では北海道から琉球列島まで広く分布しており，その生態については未知の部分が残されているものの，比較的良好に研究されている文献もある¹⁾。

秋に産卵のため海へ下る親ガニを捕獲し，食用にして賞味している地方は多く，とくに中国や韓国では近縁種の酒漬けや醤油漬けを「酔蟹」「坡州蟹」と称し珍重されている²⁾。川崎市市内でも，昭和30年頃までは多摩川に数多く生息しており，塩ゆでなどにして食用にしたと言われている。

しかし，昭和30年後半からの急激な水質の汚濁とともに，その姿はほとんど見られなくなり，最近までに多摩川水系でモクズガニが確認されたのは一例のみであった。

このほど水質研究担当による「魚類及び底生動物分布調査」を実施中，モクズガニを多摩川水系の2地点で続けて捕獲したため，その生息状況を調査するとともに，報道各社に通報し多くの反響があったため，ここに記録することとした。

2 モクズガニ調査

(1) ニヶ領用水で「モクズガニ」を捕獲

平成2年7月中旬に市内河川における「魚類及び底生動物分布調査」を実施中，市内を流れるニヶ領用水2地点（多摩区登戸の南橋及び宿河原の親水河川）で，魚類採集用仕掛「魚籠（漁具名：うえ）」に甲幅約4.5cm～5.0cmの大きな蟹3匹が続けて捕獲された。

さっそく，専門家に鑑定してもらったところ，昭和30年後半以降多摩川では絶滅したと考えられていた「モクズガニ」とわかった。

そこで，水質課と連絡をとりながら資料を作成し，7月23日にモクズガニの捕獲について報道関係に通知した。その資料及び報道内容については後述する3.(1)に示した。

(2) 多摩川登戸付近で「モクズガニ」を大量捕獲

市内河川2地点でモクズガニを偶然捕獲したが，専門家からモクズガニが「放流魚の中にまぎれ込んでいた」「よそから人為的に持ち込まれた」などが考えられることが指摘されていたため，9

月中旬から多摩川本川を中心に「モクズガニ生息状況調査」を実施した。

まず、市内河川の4地点について調査し、つづいて多摩川本川の調査を実施することとした。市内河川では二ヶ領用水の南橋及び円筒分水上で1匹ずつのモクズガニを捕獲した。これにより、かなりの数のモクズガニが広い範囲で生息しているものと思われた。

9月25日から多摩川本川調査に移り、まず宿河原堰上及び上河原堰下に魚肉片などを入れた仕掛（魚籠）を設置した。翌日、宿河原堰で仕掛を引き上げたところ、二ヶ領取水口で1匹、堰堤で4匹、堰堤から二ヶ領取水口までの間で10匹の合計15匹モクズガニが捕獲された。1個の仕掛に3～4匹の蟹が捕獲されており、引き上げるたびに「やはり、モクズガニは戻っていたのか！」と大変興奮した。

しかし、上河原堰の仕掛の引き上げは、前日来の雨の影響で川が増水していたため、一刻も早く捕獲を確認しなかったが断念した。

宿河原堰で15匹のモクズガニを捕獲したことにより、多摩川にモクズガニが生息し始めたことが確実に became と判断し、報道各社に9月28日第2報として「大量捕獲について」情報提供を行った。その報道内容を後述する3.(2)に示した。

なお、上河原堰の仕掛の引き上げは、川が増水が引いた9月29日に行い、4匹のモクズガニが捕獲されていた。また以前から捕獲し保存していたほとんどの蟹をこの時放流した。

(3) 市内多摩川全域で「モクズガニ」の生息を確認

10月上旬は市内河川の定期的水質調査のため川崎区鈴木町の1か所のみを調査し、その他の多摩川本川4地点の調査を行ったのは、10月9日からで、10月12日に9月中旬から行っていた市内河川4地点及び多摩川本川7地点の生息状況調査を終了した。

多摩川本川における調査結果は、図1のとおりであった。

以上、多摩川本川すべての地点でモクズガニが捕獲されたことにより、市内の多摩川全域にモクズガニが生息していることが確認された。

そこで、報道関係に対する資料を多摩川本川の水質（BOD）推移表とともに作成し、10月25日に第3報として報道担当主幹（市民局）あて送付し、当日報道各社に資料の提供が行われた。その報道内容を後述する3.(3)に示した。

(4) 多摩区役所ミニ水族館展示用のモクズガニを捕獲

11月下旬に川崎河川漁業協同組合をとおして、多摩区役所のミニ水族館にモクズガニを展示したい旨の捕獲依頼があったため、12月12日に多摩川宿河原堰上流と下流に仕掛を設置し、翌日5匹（オス4匹、メス1匹）を捕獲した。その報道内容を後述する3.(4)に示した。

3 モクズガニに関する新聞報道

(1) 7月23日、第1報を報道各社に次の標題資料により情報提供

二ヶ領用水で「モクズガニ」を採取しましたのでお知らせします。

第1報に関する新聞報道記事

ア 読売（7/24朝） 多摩川水系クリーン化の証明 ―絶滅したはず……「モクズガニ」生



写真1 モクズガニ

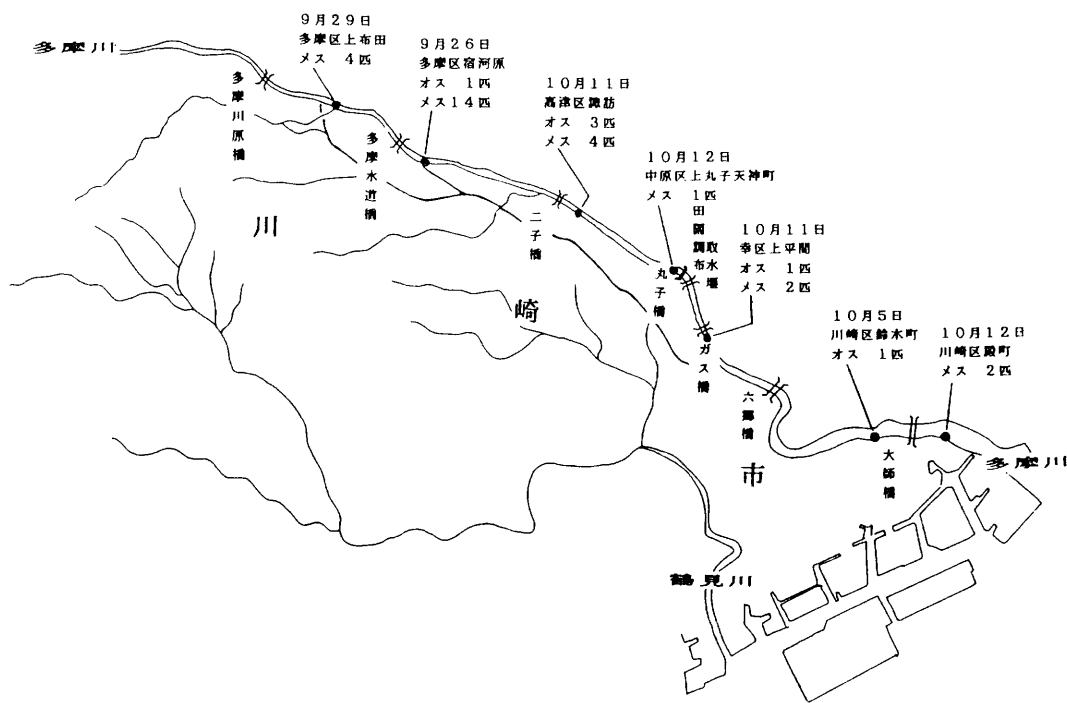


図1 多摩川における「モクズガニ」の生息調査結果

きてたゾー

- イ 産経（7/24朝） 珍しいモクズガニ採取 -川崎のニヶ領用水で3匹-
 - ウ 東京（7/24朝） ニヶ領用水でモクズガニ採取 公害研-多摩川がきれいになった!?-
 - エ 神奈川（7/24朝） 戻ってきた!モクズガニ 絶滅したはずの多摩川水系 ニヶ領用水で捕獲 -「水質浄化の成果か」関係者の期待集まる- 放流された可能性もあるが…
 - オ 毎日（7/27朝） モクズガニを採取 -ニヶ領用水で30年ぶり- 川崎市公害研究所
- (2) 9月28日、第2報を報道各社に次の標題資料により情報提供
多摩川水系に「モクズガニ」が生息していることの確認について（お知らせ）
第2報に関する新聞報道記事
- ア 朝日（9/29朝） 多摩川浄化の“証人”発見 -モクズガニさらに17匹- 市公害研など調査 でも汚れに強いカニ すめる程度浄化とか
 - イ 読売（9/29朝） モクズガニ数多く生息 -市内の河川- 公害研が調査
 - ウ 産経（9/29朝） 流れ、一段ときれいに -多摩川でモクズガニ大量捕獲-
 - エ 神奈川（9/29朝） モクズガニが戻った -水質浄化の証明 多摩川で大量捕獲-
 - オ 東京（10/1朝） 多摩川で新たに17匹 -モクズガニ 水質浄化で再び生息- 市公害研調査
- (3) 10月25日、第3報を報道各社に次の標題資料により情報提供
「モクズガニ」が市内多摩川全域に生息していることの確認について（第3報）
第3報に関する新聞報道記事
- ア 朝日（10/26朝） 多摩川のモクズガニ 河口付近でも生息 -ほぼ市内の全域で確認-
 - イ 読売（10/26朝） モクズガニ 多摩川浄化の“証人” -7地点から33匹- 市公害研究所調査 本川で生息確認水質も基準クリア
 - ウ 産経（10/26朝） ホントにきれい?多摩川のナゾ -川崎でモクズガニ大量捕獲-
 - エ 東京（10/26朝） モクズガニ新たに18匹 -市公害研多摩川全域で発見-
 - オ 神奈川（10/26朝） 多摩川がきれいになってきた! 全流域にモクズガニ -下水道普及などが奏功- 川崎市公害研究所調査
- (4) 12月13日、多摩区役所ミニ水族館展示用モクズガニを捕獲に関する新聞報道記事
- ア 東京（12/14朝） -モクズガニ生息調査-さらに5匹捕獲 少ない雌、産卵で海へ下ったか?
 - イ 東京（12/28朝） モクズガニが水族館に -多摩- ニュース東西南北欄

4 その他の「モクズガニ」などに関する報道及び反響

- (1) NHK TV・ラジオ（9/29朝） 多摩川登戸付近でモクズガニが大量に捕獲 -昭和30年代に絶滅したと考えられていたカニ- 川崎市公害研



モクスガニの生息を確認する職員

多摩川がきれいになってきた！

全流域にモクスガニ

下水道普及などが奏功

川崎市公害研究所調査

川崎市内の多摩川流域で今年七月と九月、モクスガニが捕獲されたが、川崎市はこのほど市内の多摩川本流の上・下流七カ所で本格的な調査を実施し、下流域を含むすべての調査地点か

ら計三十三匹のモクスガニを捕獲した。全流域で水質基準をクリアした昨年度とこと併せ、関係者は「多摩川は確実にきれいになった証拠」と話している。今回の調査九月～十月まで。

で発見されたモクスガニは、体長十九センチから二十七センチといずれも成長した雄、雌計三十三匹で、上流の多摩川原橋(多摩区)から下流の大師橋付近(川崎区)まで。調査に当たった川崎市公害研究所(川崎市川崎区田島)は今年七月、二ヶ領用水・宿河原線で三匹を捕獲したこと、九月には多摩川本川の上流域と二ヶ領用水で調査を実施、合わせて十七匹を捕獲した。今回は調査流域を多摩川下流まで延長。河口近くの川崎区殿町付近からも雌二匹が発見されたことから、同研究所は「放流などによらない天然のモクスガニが川をさかのぼったに間違いない」と確信を深めている。モクスガニの親ガニは海で産卵、卵から稚ガニまで

牛淵元祖
多摩川
261-0636

そのまま海で過ごす。その後河川をさかのぼり、産卵まで河川で生活する。多摩川水系では汚染で昭和三十年代後半に絶滅したといわれていた。多摩川の水質浄化については、川崎河川漁業協同組合の元木重一組合長は「六十二年あたりから市内の各支部から川エビ、ウナギ、ナマスなどが捕れるようになり、最近ではアユも捕れる」との報告を受けている。確実にきれいになってきた」と話している。多摩川浄化の原因について同研究所は、①工場廃水の規制②下水道設備の普及③などをあげている。汚染の指標であるBOD(生物化学的酸素要求量)は五十六年から改善の兆しを見せ、今回モクスガニが発見された七つのチェックポイントでは、昨年度、多摩水道橋下の三・八間などいずれも環境基準値の五割を下回った。全調査地点で環境基準をクリアしたのはこれが初めて。

写真2 仕掛を使って「モクスガニ生息調査」状況を伝える新聞記事(10月26日付け神奈川新聞)

- 究所が調査
- (2) TV神奈川(10/25昼) モクスガニが多摩川水系全域で確認 - 7地点から33匹を捕獲 - 川崎市公害研究所が調査 水質も初めて基準値クリア
 - (3) 環境公害新聞(10/3) 「黄金伝説」欄 - 多摩川の登戸付近でモクスガニがまとまって捕獲された -
 - (4) 東京(12/22朝) '90ニュース・ファイナル-7月- 23日多摩川の二ヶ領用水でモクスガニを3匹採取
 - (5) 東京(1/1朝) 第6部 ザ東京湾91, 第87面 河口の時代 モクスガニ捕れた!!

－「きれい」の証明 食用にもなるヨ－

- (6) 神奈川(1/1朝) 第3部 地域特集, 第57面 多摩川に躍る自然の息吹 一下水道の整備に重点・自浄能力強化施設も－ 清流の復活
- (7) 神奈川(7/27朝) 魚類分布状況と水質について
オイカワ激減コイ・フナ急増 一護岸工事, 小魚に厳しく－ 川崎市の河川 公害研究所が調査
- (8) 雑誌PPM(11月号) モクズガニ現わる 三菱化工機(株)広告欄
- (9) 川崎河川漁業協同組合(11/下旬) 多摩区民などから区役所のミニ水族館にモクズガニを展示してほしい旨の要望が出される。
- 市民からの通報 ア 高津区上作延の中学生: ニヶ領用水円筒分水付近の道端で, 新聞に出ていたようなカニを手で捕まえた。(9月20日, モクズガニと確認)
- イ 高津区諏訪の小学生: 平瀬橋付近の多摩川で, 新聞に出ていたようなカニを手網で捕まえた。(10月9日, モクズガニと確認)
- ウ 川崎区本町の市民: 家の庭に多摩川からカニが上ってくるが, モクズガニではないか。(8月27日, ベンケイガニの一種と現地で確認)
- エ 川崎区港町の市民(10月3日): 多摩川の大師橋の上流付近で, 干潮時(大潮)にたくさんのモクズガニを見かける。
- オ 大田区本羽田の住民(10月24日): 大師橋上流でハゼ釣り中にモクズガニが掛かってきた。
- カ その他, 大師・丸子・二子橋付近で「釣りをしていて, 昨年頃からモクズガニが釣り上ってくるようになった」などの釣り人の話がある。

5 おわりに

「魚類及び底生動物分布調査」を実施中, 昭和30年後半には多摩川から絶滅したと思われていた「モクズガニ」を偶然捕獲し, 新聞やテレビニュース等で報道され, 各方面からいろいろな反響が伝わってきている。

多摩川の水質の年平均推移をみると, 河口部の大師橋で昭和36・37年に19.3mg/lであったものが, 平成元年には2.5mg/lと約1/8の濃度になっている。また, 市内中流部の田園調布取水堰上では昭和46年に10.9mg/lであったものが, 平成元年には4.7mg/lと半分以下の濃度になっており, 一時の危機的状態を脱し, さらに公共下水道の普及につれて水質が浄化傾向を示している。

水生生物にとっては, 少しづつ住みよい環境が戻ってきていることが確かなものと考えられ, モクズガニが再び生息し始めてきたこともその一例ではないかと思われる。

今後とも, 公共用水域の水質や水辺の環境などがさらに改善され, 川や海が魚にとってはさらに住みやすくなり, 人にとってはますます親しみやすくなることを一層念じながら, 水質調査や水生生物調査を続けていきたいと思っている。

なお、「魚類及び底生動物分布調査結果」や「モクズガニの捕獲」については、当年報の他に企画情報（企画調整局，No.18，1990），公害情報（環境保全局，No.220，1990）にその概要について紹介し，月刊誌「水」には「川崎市内河川の水生生物調査」と題し投稿した。

最後に，今回の調査でモクズガニと鑑定して下さった新日本気象海洋環境生物部第一生物室の渡辺晋氏及び多摩川水系での調査を快く許可して下さった川崎河川漁業協同組合長の元木重一氏に感謝します。

6 参考文献

- 1) 武田 正倫：カニの生態と観察，ニュー・サイエンス社（1983）
- 2) 三宅 貞祥：原色日本大型甲殻類図鑑（Ⅱ），保育社，174，（1983）